

令和2年度第2回静岡県立中央図書館協議会議事録（要旨）

1 日 時 令和2年3月5日（金）午後1時30分から午後4時まで

2 会 場 静岡県立中央図書館 3階中集会室
静岡市駿河区谷田53番1号 電話番号 054-262-1242

3 出席者

（委員）

委員 小幡 壯
委員 川崎 敦子
委員 内山 淳子（Web）
委員 庄田 達哉
委員 杉山 綾菜
委員 鈴木 千明
委員 鈴木 真澄
委員 吉見 光太郎（Web）

（図書館）

館長 三科 守
副館長兼総務課長 殿岡 容子
総務班長 阿部 幸子
主査 中野 卓哉
企画振興課長 森川 景尚
企画班長 高田 和明
資料課長 小松 純代
調査課長 中村 都史彦
教育主査 小杉 敦士
社会教育課参事 藤ヶ谷 昌則

4 内 容

- (1) 開会
- (2) 館長あいさつ
- (3) 委員・職員紹介
- (4) 会長・副会長選出
- (5) 会長あいさつ
- (6) 議事

ア 県立中央図書館の状況について

イ 令和2年度重点取組・重点施策の評価について

【質疑応答・意見交換】

【重点取組について】

（委員）(7)「地域資料等の充実とデジタル化」(調査課地域調査班)について、直接外部評価とは関係ないが、私ども仕事の関係でデジタルアーカイブ化の重要性というのは非常に痛感している。その中でも、書物は皆さん当然ながら大事だということは分かっていると思うのだが、画像や動画映像、そういう資料というものが、今の世代の方にとっては情報としては本当に生で伝わる大変貴重な資料だと思っている。そのことが、私どもも今メディアとしてやりきれていない部分がある。そういう貴重な、今しか撮れないような写真をどうやって残しておくかとか、その権利関係をしっかりさせておかないと、なかなか難しい部分があると思うが、そういうところで、今、中央図書館が取り組んでいることが具体的にあるようでしたらお伺いしたい。

（図書館）ただいま御意見をいただいたことについては、当館も非常に重要だ

と考えているところである。まず、当館では、貴重書とか地域資料も重要なものが多いため、そちらのデジタル化を今進めている段階である。単純にデジタル化といっても、修理等を行うこともあるので、予算面でなかなか厳しい状況である。もうひとつ、当館で特に地域調査班が力を入れているのが、Web上の行政資料についてである。こちらは今ではだんだん紙ではなく、Web上でPDFのような形で公開されているわけだが、このようなものを効率的に収集する方法がなかなか見つからないため、今は手作業で収集を行っている。これをもう少し効率よく、例えば自動的に収集できるようなシステムの開発ができないか、今検討しているところだが、なかなか実現できない状況である。そのため、今それ以上にWeb上のものとかデジタルものを収集するといったことがなかなかできない状況になっている。

(委員)(12)の「特色ある展示・企画等の実施、葵レク(図書館講座)の充実」について、先ほど館長から静岡県立大学附属図書館との連携で特別企画展の話題があったが、県立中央図書館の展示室をお借りして、県大附属図書館にある岡村昭彦の書物を中心として展示会を行った。昨年10月末くらいから11月の2週間ほど行い、結構好評であった。

(委員)(13)「県史編さん収集資料の整理及び公開」について、県史はそれまでの蓄積があると思うが、新しいものをその都度作成していくということなのか。データベース化というか、検索システムの入力等、ある程度の新しいものも、蓄積していくという考え方なのか。

(図書館)新しいものというよりは、これまでに主に整理されてきたものが行政関係というか、政治関係のものが多かった。現在に関して言えば、災害関係、現在はコロナが流行っているので、そういった疫病というか、そういうものも含めてこれまでに蓄積できていなかったもの、抜けがあったりするものがある。そのようなものを見つけて徐々に、漏れが無いように、県史の範囲を全てカバーできるようにということで、対応をしている。

(委員)(10)「専門書を中心とする資料収集」について、デジタル化等に対応するために、予算を約250万円程度減額せざるを得なかった、ということだが、それは今年度だけのことなのか、それとも、デジタル化に対応するために、図書を購入する金額が今後も引き続き減額されるのか。蔵書が少なくなってしまうという、ちょっと心配があったので、その辺りがどうなのかということをお聞きさせていただく。

(図書館)確かに、デジタル化の方の推進が新館に向けての当館の重点目標になっていることもあり、図書購入費の方が減っているのは否めない。そのため、静岡県下全体で見ると、市町立図書館と当館では資料の収集に関しては棲み分け的なことをしていて、専門書、研究書等は当館で、なるべく網羅して収集し、読み物を中心とした文学書とかそういったものは市町立図書館に、というようなことでやっている。(10)の2番目に市町立図書館からの購入リクエストとあるが、この106件のほとんどは研究書の部類に入るもので、高額なものであった。そういったものについては、なるべく網羅する

反面、単行本の文芸書にリクエストがきた場合は、お応えできないような現状がある。財政状況は、コロナ禍のこともあるので、今後も厳しくならざるを得ないと感じている。

(委員) 今後も厳しいのではないかという発言であったが、そうすると今年度だけの処置ではなく、今後も専門書等の資料収集にあてる図書購入費がデジタル化によって、削減するという傾向は続くということか。

(図書館) デジタル化ということだけではなくて、当館の予算として資料充実費という予算項目で、こういったデジタル化、有料データベースの契約費用、貴重書のデジタル化、貴重書のかなり古いもの、江戸時代のものだとかそういうものの修理代とか、そういうものを全てまとめて資料充実費ということで予算を要求している。その総額についても、来年度は、コロナ禍のこともあり当館の予算全体が、当館だけでなく、減少傾向があるので、その中で実際の図書購入費は削減せざるを得ないところもある。ただ当館としては、先ほど資料課長も言っていたとおり専門書を中心として、市町の図書館では買にくい高額な資料をきちんと整えて県民に提供していきたいと思うので、そういう必要性はきちんと訴えて予算確保には努めたいと思っている。

(委員) 是非、その予算確保、専門書に割り当てる予算を十分確保していただきたい。

重点取組のそれぞれの項目について1件ずつ評価を行い、異議なく外部評価は全てAとなった。

【各班の重点施策について 総務課】

(委員) 想定していなかったわけだが、コロナ対策も後追いになるが、アンケートを見ると、安心して使えた、利用できた、というような回答があったので、評価できるのではないかと思う。外部評価Aでよろしいか。(出席者同意)

【各班の重点施策について 企画振興課】

(委員) 県立中央図書館の公式 Twitter が、すごく写真が綺麗で、頻繁に更新されていて、センスがあるな、と思って見ている。本当にこういう Twitter などは大事だと思うので、こういうふう発信していけば来館者もきっと増えるだろうし、なんか興味がわいてくれるだろうな、と思う。品がある、写真も綺麗で素晴らしいなと思った。

(委員) YouTube チャンネルで、新刊サロンの本の紹介を毎回楽しみに見た。読み聞かせをやっているお母さんたちにも、是非、見てみて、という感じで薦めた。今まで遠かったこちらの図書館が、すごく身近に感じた。それからお薦めの本、本当によく伝わってきて、子供の絵本など、あ、すぐに借りたいなと思い、大変参考になっている。先ほど、どんぐりひろばをちょっと覗かせてもらった。ホームページや Twitter で紹介されているもので見ているよりも、オープンな感じで、思ったよりも広がったので、いいな、と思った。お子さんとお母さんたちが安心して使える位置にもあるのかな、と思った。

実際に足を運んでみて、良さが余計に分かった。Twitter とかで、名称を公募していたときに、どれになるか、わたしならこれ、といつも見ていたが、自分が思ったものになったので、やったあ、という感じで、すごくそういった臨場感があった。Twitter で館内の様子が、写真でいろいろ分かり、コロナのことについても、すごく分かりやすく、あ、今椅子をこんなに間引いているんだな、というように様子を見られたので、安心できた。実際にこちらによく来られる方は、すごく参考になるのではないかな、と思った。今後も続けていただきたい。大変な面も多いと思うが、よろしくお願いします。

(委員) 企画振興課の3件、いずれも外部評価Aとしてよろしいか。それでは3件Aということにする。(出席者同意)

【各班の重点施策について 資料課】

(委員) 意見、質問がなければ、外部評価をAとする。(出席者同意)

【各班の重点施策について 調査課】

(委員) 最後の歴史文化情報センターからの報告で、利用者あるいは来館者、実際に訪れる人の減少傾向というのは、今年度は特別な状況だと思うが、遡って2、3年前からそういう傾向があるのか。

(図書館) 自治体史を編さんするという自治体がある年は非常に利用が多いのが現状である。平成30年度に関しては、今別の部署が担当している静岡県史の人口史編というものを編さんして、そのときは非常に来館者、来室者というか利用件数は多かった。昨年度に関して言えば、ちょっと落ち着いたというか、大分落ち着いたというのが正直なところだ。今年度はまた自治体史を編さんする自治体がいくつあって、問い合わせがあり、ちょっと動き始めている。それで2月3月くらい、少しそういった利用に関する問い合わせ等はある。なんといったらいいかわからないが、こちらで努力するだけのところではないので、数字として、こちらがこうしたから、利用者が増える、利用率が増えるということではないので、なかなか難しいところだ。

(委員) どうしても、こういう評価は、数で評価されてしまう。図書館の性格からいって、アクセス数とか貸出数とか、来館者数とか、もちろんそういうものも重要になってくるわけだが、県史や古い資料を整理しておき、いつでも使えるようにしておく、ということが一番の大切なことだろうと思う。十分そういう作業を継続して行っていただきたいと思う。

(委員) 私も、今お話しがあった点は非常に大事なことだなあ、と思っている。実は、わたしどもも、コロナの中で、地域の歴史本を作ろうということになった場合に、県立中央図書館や国立国会図書館で古文書を見たりしなくちゃいけないが、御承知のとおりコロナで足を運ぶこともできず、これがデジタルで見られるってということで、非常に役に立っている。今の、一般の方々は直接的に古文書とか県史を読まれる機会はないかもしれないが、その前に出版社とか大学の先生をはじめとして、それを利用して、一般の人にも読みや

すいような形でつくるために、どうしても必要な資料になる。もしそれがなくなってしまうと世の中かなりの貴重な本が出版される機会を失うということになると思う。いくらそれがアクセス数が減ろうがそれから裾野がずっと繋がっている、こう見えないところというのがあるので、とてもこの仕事というのは大事だと私は思う。本当に是非是非地道に作業を進めて、本当に使うのはプロという限られた者になるのかもしれないが、プロに対する利便性を増すベンチャーベース作りというものに励んでいただけたらと思う。

(委員) 他にご意見、ご質問が無いようなので、調査課の3件は外部評価Aということとする。よろしいか。(出席者同意)

ウ 令和3年度の基本方針と重点取組について

【質疑応答・意見交換】

(委員) 令和3年度重点取組案の(9)について、今館長の方から説明があったが、葵文庫・久能文庫は静岡県立中央図書館のお宝であると思う。それぞれの図書館でなにか特徴があるというか、外部へ向かってアピールできるものということが必要になってくると思う。そういう意味で静岡という土地もあるし、歴史もある、久能文庫・葵文庫というのはそういう意味においては新県立図書館になっても、非常に重要度が高いものと思うので是非デジタル化を進めていっていただきたいと思う。

エ 県立中央図書館司書育成指針について

【質疑応答・意見交換】

(委員) 大学で司書についての勉強をしているとやはり1年経つと教科書の内容が減ったり逆に詳しくなったりして、本当に常に学んでいかなければならない、学びなおさなければいけない、というのは学生のときから強く実感することであるので、常に学びなおしていくために、学びなおす土台である環境づくりをしっかりとってくださるとするのは、将来司書を目指す身としては、とても安心できるなと感じた。

(委員) 今説明に用いられました冊子の方は、「県立中央図書館司書育成指針」となっていたが、何回かに分けて送られてきた資料の中には、「静岡県版司書育成計画(仮称)」となっていた。この「静岡県版」というのが気になっていて、つまりこれは他の県でもこういうことをやっていて、そういうものを静岡県でもやりますよ、という意味なのかなと思ったが、これは、静岡県独自のものなのか。あるいは、他県でもやっているようなことをやりましょう、ということなのか。

(図書館) このような司書育成指針ないし育成計画というのを、明確に打ち出しているところは、横浜市くらいしか見当たらない。ただ、公開はしていないけども、内部的にもっている、というのは山梨県立図書館等にもみられる。今回新館を建てていくというところで、ビジョンが出てきたので、それで司書も採用していくということで、では新館に向けてどのような人材を育成し

ていくか、というのはやはり大事になってくるので、今回、育成指針という形でお示しをする形になった。

(委員) なかなか格調高いというか、理想を追求しているな、というような感じがする。例えば3ページ目の「理想の司書像」の「職業倫理と使命感」「長期的かつ世界的な視野からみた図書館の使命の実現」、これはどこかで使いたいな、と思っている。理想的な目標、スローガンだなと思っている、一昨年、ニューヨーク公共図書館という映画が公開されたが、あれなんかを見ると、本当に本来の図書館というのはこういうふうにあるべきものなのだな、と実感した。世界的な視野を持った司書がいる図書館というのは、これから求められると思うので、是非理想を追求していただきたいと思っている。その中で、具体的に、例えば7ページの一番下の「e 国際化・多文化研修」というのがあるが、是非こういった海外研修や海外との交流というものを通じて、世界的な視野を持った司書が誕生してくれるだろうと思うので、是非進めていっていただきたいと思う。この「e」に関しては、何か具体的な計画、海外研修のようなものはあるのか。

(図書館) 現時点では、なにもできていない。コロナ禍で、なかなか現地に行けないということもある。しかし、逆にこういう時期だから、オンラインでできるということも大分分かってきたので、オンライン研修なども視野に入れつつできていくのではないかとということで記載している。また、今後、実際に進めていく中で、予算との絡みもあるので、可能であればそういうところを、是非広げていきたいと思っている。

(委員) これは、タイトルとしては「県立中央図書館司書」になっているが、説明の中にもあったが、市町の図書館の司書も講習会研修会等で研修をする、というようなことは考えているのか。

(図書館) 直接、市町の図書館に研修ということはないが、うちが公開することによって、市町立図書館の司書、専門職の方も大勢いるので、そういう中で、自分がどこのレベルに達していきたいのか、をやはり、ちょっと先を見据えて、できるようにということで、できるだけ具体的に目標水準や到達水準がわかるように今回作成した。その辺、内山館長等、なにか感想があれば是非いただきたい。よろしくお願いします。

(委員) とても感動した。新館に向けても、是非司書専門職としての人材育成に力を入れていただけると本当に市町としてもありがたいと思う。市町のサービスの牽引役としても、是非県立に市町の指導役として司書の見本となりますような司書の育成に力を入れていただきたいと心より願っている。今、司書の資格を取っている学生にとっても、静岡県の図書館の明るい未来のためにも、よろしくお願いします。

オ 新県立中央図書館の整備について

【質疑応答・意見交換】

(委員) 1人用ブースを置いてもらえるかどうかというのは、まだわからない

が、コロナということが今年度で終わりというわけではないので、そういうことを考えると、1人用ブースがあるというだけでひとつ安心なのかな、という気がする。静岡県に移住したいという人が、全国で1位になったという話を聞き、静岡県立中央図書館、こんなにいいところがあるんだよ、と試してみんながもっともっと集まってきてくれる、駅のそばなんていったら、なおさらいいなっていう、この計画が順調に進んでくれることを心待ちにしながらいたいと思う。

(委員)今年度特にそうだが、社会全体が閉塞的な雰囲気である明るい話題がない。静岡県においても、リニアの話ばかり取り上げられて、マイナスなイメージ、県民にとってもワクワクするようなニュースが余り耳に届かない。先程の司書の育成指針もそうだが、静岡県が文化に力を入れて、こんなことを考えている、というのをもっといろいろ県民にアピールできるような、広報の話も先ほど出ていたけれども、いろいろな手段を使って、令和8年というのは、随分先のような気はするが、そこも長い期間を楽しみながら、長くこう、どんどん首を長くしながら待ち遠しい、待ち遠しい、という想いもプラスになるような、広く県民に、こういうときだからこそ、明るい材料を途中経過でもいいので、こんなふうになります、こんなふうになっています、というのを、私たちは今、この場に来させていただいたのでいろいろ情報を得て期待するところが大きいので、そういった情報を出せる範囲でいいので、県民のみならずにもお伝えしていただいて、みんなでこの完成を待つ期間を、一体感を持ちながら進めたら、完成のときの喜びもまた倍になるんじゃないかな、と思うのでよろしく願います。

(委員)個人的に、先ほども言ったが、閲覧スペースをさまざまな形で用意してくれるというところが、すごく嬉しい。初めてこちらの図書館に来たときに、すごく驚いたのが、ものすごく閲覧スペースが広く取ってあったところに、すごく驚いて、本の棚を隅に置いてあるので真ん中を人が通っていかないから、座っているときに人が横を通ることがあまりなくて、そこがすごく集中できていいな、というふうにも思った。すごく静かなところなので、ちょっと、緊張しちゃうなというのはあったが、他の図書館だと逆に机が外の方に置いてあるので、比較的人が真ん中を行き来しているところがあるが、そのタイプはそのタイプでまた、何が人気があるのかとか、どういうところに人が集まるのかというのがよく分かって、知らない本と出会えたりとかする楽しさもあるので、本当にいろいろな閲覧スペースがあるとまた、いろいろな交流の仕方とか、いろいろな本との出会いができるようになるんじゃないかな、という嬉しさもある。あと、学習室でパソコンとかは使えるようになるか。

(社会教育課)Wi-Fi環境は全館的に用意をする。学習室をどうするかまではしっかり決まっていないが、閲覧席でパソコンとか自分で持ってきたタブレットとかは使えるようになる予定だ。

(委員)大学生の意見としては、パソコンが使えるということはすごくありが

たい。大学はコロナ禍かどうかという以前に紙媒体でレポートを提出するという機会が少なくなってきたいて、基本的にパソコンで書いて印刷して出すかインターネットを通してメールで出すかという形が増えてきているので、大学生はパソコンを持って資料を探しにいくみたいな状態になっている。図書館によってはパソコンの使えるスペースが限られていて、そのスペースもほかの閲覧の人たちと近いので音がどうしても気になってしまう人がいて少し気を遣ってしまうところがあった。パソコンを使えるスペースというのが、静かに本を読みたい人と少し離れていたりすると大学生的には安心して使えるので嬉しいかなと思う。

(社会教育課) ありがとうございます。御意見参考にさせていただきたいと思う。パソコンについては、我々の想定は、これからはスマホとかタブレットとかというものが大分多くなってきて、とういうふうになると思うが、今現在だと、パソコンのキーボードだと周りの人の迷惑というか、気なる人は気になるとか、分けなくちゃいけない、ということが出てきたりするが、いろいろな方の御意見を聞きながら、いろいろなニーズに応えられるようにしていきたいと思う。また、御意見をいただきたいと思います。

(委員) 今回新しく出てきたものに、アフターコロナ、ポストコロナの社会に対応できるような図書館ということが考えられるということ。恐らくコロナということだけではなくて、これから新しい図書館というのは実際に足を運ぶ従来の利用の仕方と、もうひとつは自宅にしながら、電子媒体、パソコンとかそういったものを通じてアクセスするようなそういうハイブリッドな図書館というものが恐らくは目指されるべきだろうと思う。是非そういったソフトの部分での新県立図書館の対応を、あと5年、実際には何年かあると思うので、その間にいろいろとアイデアを出していく、というようなことをさせていただきたいと思う。その際、今大学生の方から意見があったが、小中高生から大学生、そして一般、高齢者、利用の仕方というのはいろいろと違うと思うので、そういう方々のそれぞれの意見を汲み上げていくような、汲み取っていくような、そういう図書館作りをしていただければ幸いだと思っている。それから、先ほども申しましたが、やっぱり目玉商品というか、藝文庫・久能文庫というのは静岡県立中央図書館のお宝だと思います。それは是非アピールできるような方向に持って行っていただきたいと思う。それから、何度か気になっているので発言したことがあるが、新館設立予定地に古代東海道の道、遺跡があるが、是非この新しい図書館には、東海道というか、これは江戸時代の東海道じゃなくてさらに古い東海道だと思うが、そのせっかく静岡県を長い東海道が通っていたわけですから、新しい図書館で「道」を紹介するような資料を集めたり、あるいは「道の図書館」という特色も出してほしい。全ての道はローマに通じるという言葉もありますが、文明というのは必ず道路、道を整備する。そういう意味でいえば、日本の東海道だけではなくて、日本のいろんな古代道、あるいは世界の道、そういったものを紹介できるような資料を備えて、道のことであれば何でも調べられるというよう

なことが、新しい特徴として考えられるのではないかと考えている。これまでハードの面での建物としてどうやっていくか、というようなことがいろいろ話題になっていたと思うが、実際にスケジュールが示されて、今度はソフトの面でどのような図書館を目指していくのか、ということこれから詰めていく段階になってきているのではないかと、思う。

(委員) なにかございますか。なければ、これで本日の議事は以上になります。いろいろ活発な意見交換、ありがとうございました。

今回、本日の協議会での意見というものを、今後の図書館運営、あるいは新県立中央図書館の整備の参考にさせていただきたいと思っております。